

安足地域水稻技術情報 No. 4

令和 8 (2026) 年 8 月 6 日
安足農業振興事務所

水管理：落水時期(出穂期後 30 日以降)までは、間断かん水を基本としましょう。

高温対策：出穂後に高温が予想される場合は、夜間かん水により地温の上昇を抑えましょう。

斑点米カメムシ類対策：薬剤防除と畦畔の草刈りを組み合わせ、不稔や斑点米の発生を防ぎましょう。

1 水稻生育診断ほ場(佐野市石塚町)の生育調査結果

平年と比較して、草丈はやや短く、茎数は少なく、葉齢からみた生育は 3 日程度遅れています。

幼穂長から推定した「とちぎの星」の出穂期は、平年よりもやや遅くなる見込みです。

表 1 水稻(品種：とちぎの星)の生育調査結果

	8 月 3 日 調査	平年比・差
草丈(cm)	78.2	97%
茎数(本/㎡)	397	91%
葉齢	11.7	-0.6
葉色(葉色板)	3.8	+0.3

移植日：6 月 15 日



写真 水稻生育診断ほ場の様子

表 2 水稻(品種：とちぎの星)の出穂期予測

品種	幼穂長 (8 月 3 日時点)	予想される 出穂期	令和 7 年産 出穂期	平年値
とちぎの星	10.4mm	8 月 21 日頃	8 月 17 日	8 月 18 日

移植日：6 月 15 日

出穂期：全茎の 40～50%が出穂した時期

2 今後の気象

気象庁が7月30日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は「高い」、降水量および日照時間は「平年並み」と予想されています。今後、高温条件が続いた場合には、出穂期が平年より早まる可能性があります。

表3 関東甲信地方（栃木県）の1か月予報（2026年7月30日気象庁発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 08/01～08/31	10 40 50
		1週目 08/01～08/07	10 30 60
		2週目 08/08～08/14	20 50 30
		3～4週目 08/15～08/28	10 40 50
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 08/01～08/31	30 40 30
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 08/01～08/31	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 これからの作業のポイント

（1）水管理・高温対策

出穂期前後は最も水を必要とする時期です。水を切らさないよう、こまめに間断かん水を行いましょう。

玄米の大きさは出穂後約4週間かけて決まるため、品質の高い米の生産に向けて、落水時期(出穂期後30日以降)までは間断かん水を継続しましょう。なお、出穂期後30日以降も高温・多照条件が続く場合は、収穫7～10日前まで走り水を行いましょう。



図1 間断かん水のイメージ

<高温対策は夜間かん水>

- ・出穂期から 20 日間は、ほ場内の水温・地温を低く保つことで、胴割粒や白未熟粒の発生を軽減できます。高温が予想される場合は、夕方から早朝にかん水を行い、地温の上昇を抑えましょう。

(2) 斑点米カメムシ類の防除を適期に行いましょう。

○除草

水稻の出穂 2～3 週間前(除草①) および出穂期頃(除草②) の計 2 回、水田内や畦畔、農道等の除草を実施しましょう(図 3)。2 回の除草が困難な場合は、水稻の出穂期 10 日前までに実施しましょう。なお、出穂期前後のみの除草は、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込むおそれがあるため、実施しないようにしましょう。

○薬剤防除

- ・不稔被害を防ぐため、出穂期頃に薬剤散布(薬剤散布①)を行いましょう。
- ・斑点米被害を防ぐため、薬剤散布①の 7～10 日後に薬剤散布(薬剤散布②)を行いましょう。その後も斑点米カメムシ類の発生が認められる場合は、7～10 日間隔で 1～2 回の追加防除を実施しましょう。



図2 イネカメムシ発生地域における斑点米カメムシ類の総合防除体系

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0283-23-1431

ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>